

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良市 富雄第三小中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒631-0064
奈良市帝塚山南 2 丁目 11-1

E-mail tomiodaisan-e @naracity.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 354 名 女子 321 名 合計 675 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(記入例)

当校は、「人権尊重の精神に徹し、確かな学力、豊の心と健康でたくましい体をもって、未来に向かって力強く生きていく子どもの育成」を学校理念)として、ESDを「これからの未来を生きていく子どもたちに必要な教育」と捉え、ESDの実践を通して「自ら計画し、学び、活動する中で、未来を切り拓いていく力」の育成を目標とし、推進していく委員会として、ユネスコ委員会を中心に活動を行った。

① ユネスコ委員会の設立について

本校では、学校全体の ESD としての活動リードすることを目的に、今年度ユネスコ委員会を新たに設立した。小学部 5 年生から中学部 9 年生までが一緒に活動し、教員も小学部と中学部の教員が協力しあいながら委員会活動の運営をサポートした。

活動の実際としては、ESD の様々な分野の中から、特に、本校でこれまで取り組んできた、オーストラリアのハリソンスクールとの交流を中心とした国際理解に関わる活動と、本校のビオトープにおける、環境、生物多様性に関わる活動に重点を置き、取り組んだ。その際、ASP ネットワークに属する奈良教育大学と連携を図り、その中でも奈良教育大学ユネスコクラブの支援をいただいた。

1、 国際理解に関わる活動

国際理解に関わる活動では、ハリソンスクールと、どのように交流をしていくかを考えることができた。実際に行った活動としては、ハリソンスクールのアートデーへの図工作品の出品、オーストラリアの文化を体験するためにクリスマスパーティーやハロウィンパーティーなどのイベントの開催、富雄第三小中学校の毎月のニュースのハリソンスクールのホームページへの掲載、ビデオレターの送付などの活動があげられる。また、地域の方とのつながりの中でネパールの小中学校の児童とつながりを持つことができ、ネパールの児童の作品展を本校で開催することができた。

2、 環境、生物多様性に関わる活動

生物多様性に関わる活動では、ここ数年、整備がされず管理が行き届いていなかったビオトープを整備、管理していくことで、自然の本来の姿や、生物多様性の意義について学習を重ねていった。その際、奈良環境カウンセラー協会の方や、奈良教育大学ユネスコクラブの支援を得ながら進めていった。今年度の成果としては、ビオトープの意味を学習し、本来の姿はどうあるべきかということを考え、枝積み、石積みなどの活動や、広報活動などを行い、本来の奈良の自然の環境に少しでも近づける活動を行った。



1 クリスマスパーティー



1 イベントの計画



2 環境カウンセラーから学ぶ



2 ビオトープを見直そう

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(休み時間や、放課後の時間等)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

奈良環境カウンセラー協会
http://kankyo16.sakura.ne.jp/index5_member.htm

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校のある奈良市では、総合的な学習の時間を総合「なら」科として定め、世界遺産学習を中心に学習活動を行っている。また、社会科や理科などの教科を中心にすべての教科で ESD に関わる視点を持つことができるように職員にもユネスコスクールの意義を周知しているところである。

また、その中心となることができるように、今年度からユネスコ委員会を設立し、その担当者を中心に ESD の実践を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

今年度、ユネスコ委員会を設立し、小学校中学校ともに、2名ずつ担当者を決め、その中の2名が国際理解担当、他の2名がビオトープ担当とし、活動を行った。また、継続的に行っていくために、ユネスコ委員会の設立意義や、ESD について職員全体にアナウンスするとともに、なぜユネスコ委員会が新しくできるのかを、全校朝会にて、小学生中学生ともに広報活動を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年1度、学校評価アンケートを保護者、児童、教師の三者を対象に行っている。「ユネスコスクール」との直接的表現はないが、総合なら科を中心に、ESD を意識したものとなっている。今年度の結果としては、活動内容が保護者に明確に示されていないことや、どのような成果があったのかわかりにくいという課題が見えてきたので、来年度改善していく予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度、奈良教育大学で行われた ESD コンソーシアムにユネスコ委員会として参加し、近畿圏内の小中学校計 5 校と活動内容の交流を行うことができた。その中で、児童生徒は、様々な ESD の取り組みについて学び、今後の自分たちの活動に生かそうとする姿勢が見られるだけでなく、モチベーションを高く持ち、意欲的に活動する態度が養われることとなった。また、地域の方へのアナウンスの結果、ネパールの小学校からの先生の訪問や、作品の交流も行うことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

奈良教育大学のユネスコクラブの中澤先生を中心に毎月のユネスコ委員会には、学生数名をお招きしユネスコ委員会に出席していただき、ESD の視点や、自分たちにできることについて、アドバイスを頂いたり、ファシリテーターとして、ユネスコ委員会の話し合い活動に参加したりし、交流を持つことができた。また、前述の ESD コンソーシアムに参加することで、近畿圏のほかの学校 5 校の発表を聞き、質疑応答を行うことでほかの学校とも、交流の機会を持つことができた。さらに、ビオトープの環境整備に関しては、環境カウンセラーと連携をしながら活動を進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

オーストラリアのハリソンスクールと交流を行っている。来年度には、オーストラリアより、十数名の生徒が本校を訪問する予定である。また、本校からも、数名の生徒が渡豪し、ハリソンスクールを訪問する予定である。
また、その準備段階とし、今年度、日本へ来る生徒に対して手紙を書いたり、ビデオレターを送付したりした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコ委員会を設立し、全校にアナウンスしていくことで、ビオトープの使い方に変化が生じたり、今まで以上に、「どのようなことをすれば、喜んでもらえるのか」「どのようなことが必要なのか」などと、主体的にハリソンスクールからの生徒を受け入れようとしたりする態度が養われたと考える。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

平成 30 年度も今年度にひきつづき、ユネスコ委員会を中心とした活動を行って生きたい。その中でもハリソンスクールに関して、児童生徒や教員の交流が活発に行われる予定である。夏ごろには、ハリソンスクールから、十数名の児童が本校を訪問することや、本校の児童も渡豪予定であるので、それに向けて活動を深めていく予定である。

また、ビオトープに関しては、今年度整備した生物を呼ぶ仕掛けにどれくらいの生物が集まってくるのかを一年を通して、観察していきたい。

学習活動としては、総合「なら」科における 5 年生を中心とした世界遺産学習や、そのほかの科目でも ESD の視点を持ちながら実践を行って生きたい。